

歩道橋個別施設計画

【門真市】

平成 31 年 2 月（令和 7 年 8 月 一部改訂）

目 次

1. 対象施設
2. 計画期間
3. 対策の優先順位の考え方
4. 個別施設の状態等
5. 対策内容と実施時期
6. 対策費用
7. 新技術等の活用方針
8. 老朽化対策における基本方針
9. 費用の縮減に関する具体的な方針

1. 対象施設

門真市が管理する横断歩道橋3橋を対象とする。

施設名	路線名	建設年	施設長	幅員	所在地
北島歩道橋	岸和田守口線	1980	43.8	1.9	門真市五月田町
石原町歩道橋	浜町桑才線	1972	42.9	1.9	門真市石原町
なみはやドーム歩道橋	門真駅前線	1995	88.3	6.4	門真市大字三ツ島

2. 計画期間

当該個別施設計画の計画期間は令和6年から令和10年までの5年間とする。

3. 対策の優先順位の考え方

総合評価値、判定結果及び諸元重要度に基づき優先順位を決定する。

※総合評価値

各部材の損傷度より橋梁全体の耐荷性、災害抵抗性、走行安全性の3指標で評価値を算出し、最も低い点数を総合評価値とする。

※判定結果

定期点検結果における判定区分（Ⅰ～Ⅳ）

※諸元重要度

諸元項目ごとに重み係数を設定し100点満点で算出する。

※諸元項目の重み設定および評価項目の評定設定を以下に示す。

重み係数

橋梁諸元	重み係数
橋長(m)	0.10
有効幅員(m)	0.10
路線種別	0.10
供用年	0.10
地域緊急交通路	0.20
避難路	0.20
舗装概況	0.20

各項目の評点

橋長 (m)				評点
データ範囲				
5 未満				0
5	以上	10	未満	35
10	以上	20	未満	70
20	以上			100

有効幅員 (m)				評点
データ範囲				
8 未満				0
8	以上	12	未満	35
12	以上	16	未満	70
16	以上			100

路線種別		評点
評価項目		
市町村道 1級		100
市町村道 2級		50
市町村道 その他		0

供用年				
データ範囲				評点
1960 未満				100
1960 以上	1980 未満			70
1980 以上	2000 未満			35
2000 以上				0

地域緊急交通路	
評価項目	評点
指定あり (○)	100
指定なし (×)	0

避難路	
評価項目	評点
該当 (○)	100
非該当 (×)	0

舗装概況	
評価項目	評点
L	0
A	35
B	70
C	100

4. 個別施設の状態等

判定区分 I	判定区分 II	判定区分 III	判定区分 IV	計
1 橋	2 橋	0 橋	0 橋	3 橋

5. 対策内容と実施時期

(単位：千円)

横断歩道橋名	路線名	点検 結果	措置 内容	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	優先 順位	対策 費用
北島歩道橋	岸和田守口線	I		点検					点検	-	0
石原町歩道橋	浜町桑才線	II		点検			実施設計	対策工事	点検	-	5,500
なみはやドーム 歩道橋	門真南駅前線	II		点検			実施設計	対策工事	点検	-	5,500
対策費用 計					0	0	5,000	6,000			11,000

6. 対策費用

(単位：千円)

計画期間	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
概算費用	0	0	0	5,000	6,000

7. 新技術等の活用方針

令和 10 年度までに管理する全横断歩道橋について、修繕や点検等に係る新技術等の活用の検討を行うとともに、費用の縮減や事業の効率化等の効果が見込まれる新技術等を活用することを目指します。

また、新技術等を活用することで、修繕や点検における費用を 1 割程度縮減することを目指します。

8. 老朽化対策における基本方針

本計画は、維持管理・更新コスト縮減のために、損傷が深刻化してから対応する『事後保全型』から、損傷が軽微な段階から補修を行うことにより横断歩道橋の延命化を図る『予防保全型』への転換を図ります。

9. 費用の縮減に関する具体的な方針

点検により把握した健全度をもとに、損傷が深刻化する前に修繕を実施する予防保全型の考え方により、補修および架替えに係る事業費の大規模化を回避し、必要予算の平準化および維持管理費の縮減を図る最適な修繕計画を立案します。